

日本放射光学会誌の完全電子化について

会長 尾嶋正治

幹事 足立伸一, 木村真一, 原田慈久, 水木純一郎, 木村 滋

会員の皆様,

日本放射光学会では、学会誌「放射光」を年間6回発行しておりますが、学会誌の出版費が学会支出の約6割を占めていることや、昨今の電子出版の事情を踏まえて、冊子印刷の形態を今後どのようにすべきかについて、幹事会、編集委員会等で議論してまいりました。2011年6月に、全会員への学会誌電子化に関するアンケート調査を行った結果、早期に冊子印刷の完全電子化を進めるべきであるとの結論に達し、評議員会の承認を得て、2014年1月号から学会誌の冊子印刷を終了して完全電子化すること、また過渡的な措置として2012年5月号から2013年11月号までの学会誌を2色刷り印刷とすることを決定いたしましたので、その経緯の詳細についてご報告いたします。

【これまでの経緯】

昨今のインターネットと電子出版技術の普及により、出版物の電子化の流れが広まりつつあり、また電子出版物を購読するための周辺端末機器も年々充実しつつあります。放射光学会の学会誌出版においても、将来の学会誌の電子化が重要な検討課題となっていました。一方で、現在のカラー冊子版の学会誌の印刷費用は1号あたり約150万円、年間約900万円であり、学会全支出（年会・合同シンポジウム支出を除く）の約6割を占めています。また、昨今の企業業績の悪化による会誌広告および賛助会員収入の減少から、学会収入は年々減少傾向にあり、年間の学会会計において年会・合同シンポジウムの黒字分を除くと、学会会計収支がここ数年赤字傾向にあることは、「放射光学会の会計状況と学会誌について」の会長メッセージとして学会ホームページに記載し、会員の皆様にお知らせしている通りです（図1）。

放射光学会幹事会ではこのような状況を踏まえ、現在のカラー冊子印刷のコストを削減し、学会収支を安定に維持する方策を検討してまいりました。具体的には、学会誌を二色刷りとして印刷コストを約2/3に縮減するとともに、オンライン版では従来通りカラー図の入ったPDFファイルをダウンロード可能とする案（二色刷り・カラーオンライン案）および、冊子体の印刷を廃止して完全電子出版に移行する案を提案し、それぞれの案の具体的な検討を編集委員会に依頼しました。また同時に、全会員に対して学会誌電子化に向けたアンケート調査を行うこととしまし

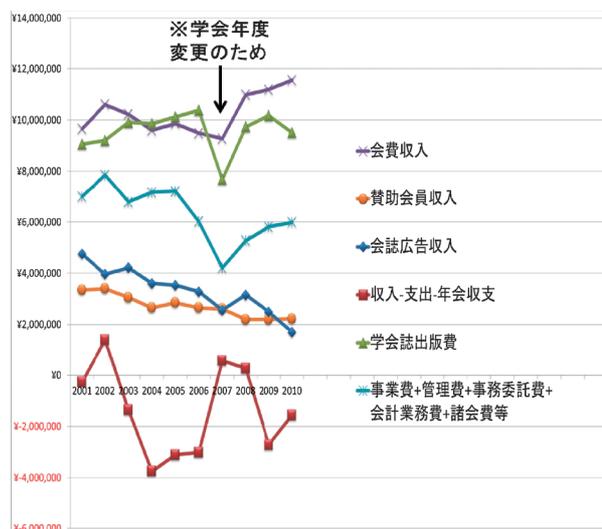


図1 学会収支決算の年度推移

た。

【学会誌電子化に関するアンケート結果】

2011年6月に、全会員に対して「放射光学会誌の冊子印刷と電子出版に関するアンケート調査」を行った結果を以下に示します。アンケートは放射光学会の個人会員全員を対象として実施し、回答期間は2011年5月25日から6月13日までとしました。アンケートの回答形式は学会ホームページ上のWEBフォームから入力する方式としたところ、全回答数は249通で、年代別の内訳は20歳代（22通、8.8%）、30歳代（75通、30.1%）、40歳代（85通、34.1%）、50歳代（43通、16.9%）、60歳以上（25通、10.1%）となっています（図2）。

アンケートの設問2「今後の学会誌の形態がどうあるべきか」では、カラーもしくは二色刷りの冊子体を維持すべきであるとの意見は全体の約1/3であり、約2/3の会員が冊子体を廃止して、完全電子版に移行すべきであるとの意見でした（図3）。設問2の回答に対する年齢分布をみると、比較的若い年代に完全電子化を望む意見分布が多いものの、どの年代においても、約6割程度の会員が完全電子化を望んでいます（表1）。また設問3で、学会支出に占める学会誌出版経費の一部が削減され、学会会計上の黒字が生じた場合の取扱いについて質問したところ、約半数

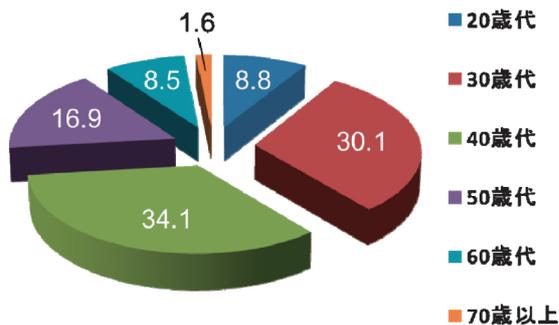


図2 アンケート回答者の年齢分布

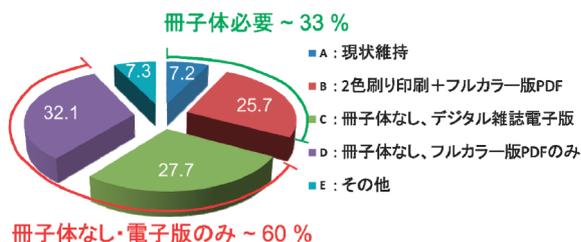


図3 アンケートの設問2「現在の学会誌の形態は、今後どのようにすべきでしょうか。」に対する回答

表1 設問2の回答について年齢ごとの意見分布表

回答	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
A: 現状維持	2 (9.1%)	5 (6.7%)	7 (8.2%)	3 (7.1%)	1 (4.0%)
B: 2色刷り	4 (18.2%)	19 (25.3%)	24 (28.2%)	11 (26.2%)	6 (24.0%)
C: 電子書籍	9 (40.9%)	24 (32.0%)	21 (24.7%)	10 (23.8%)	5 (20.0%)
D: PDFのみ	7 (31.8%)	23 (30.7%)	26 (30.6%)	16 (38.1%)	8 (32.0%)
E: その他	0 (0.0%)	4 (5.3%)	7 (8.2%)	2 (4.8%)	5 (20.0%)
合計	22	75	85	42	25

表2 学会支出に占める学会誌出版経費の一部が削減され、学会会計上の黒字が生じた場合の取扱い

回答	回答数	%
A: 値下げ	126	50.6
B: 新規活動	103	41.4
C: その他	20	8.0
合計	249	100

(A: 年会費を値下げする。B: 新規な学会活動に充てる。)

の会員が学会費の値下げを、また約40%の会員が新規学会活動を望んでいることがわかります(表2)。

このアンケート結果を受けて、幹事会では早期に冊子印

刷の完全電子化を進めるべきであるとの結論に達し、評議員会の承認を得て、2014年1月号から学会誌の冊子印刷を終了して完全電子化すること、また過渡的な措置として2012年1月号から2013年11月号までの学会誌を2色刷り印刷とすることを決定しました。完全電子化の前に2色刷りの期間を設けるのは、冊子体を2色刷りにすることによる支出減を原資として、完全電子化のための準備資金とするための措置です。(ただし、その後の編集委員会の検討により、カラー印刷を前提とした執筆依頼が、2012年3月号分まで進んでいることとから、2色刷り印刷の開始時期を2012年5月号からと変更しました。)

【今後の進め方について】

今後、放射光学会幹事会、編集委員会では、放射光学会誌の完全電子化に向けて、以下のようなロードマップに基づき進めてまいります。また学会誌の完全電子化に伴う学会費の値下げや新規事業の展開については、今後の電子化の動向を見ながら適宜判断する予定です。

会員の皆様におかれましては、学会の現状をご理解いただき、利用満足度の高い「電子版・放射光学会誌」の実現に向けてご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【学会誌の完全電子化に向けたロードマップ】

2011年7月9日 評議会で完全電子化に向けた幹事会案を提案し、承認

7月29日 編集委員会 電子化検討WG、2色刷りWGの立ち上げ

- どちらのWGも5名程度とし、基本的な形態を議論

9月(24巻5号)

学会誌で会員へのアンケート結果の公表と完全電子化に向けた基本方針の周知

2012年5月末(25巻3号)

2色刷り(+オンラインカラー版)開始

6月 編集委員会 電子化検討WG

- 電子化基本案の提出

⇒評議会で承認を得て詳細を詰める

9月 編集委員会 電子化検討WG

- 仮電子版作成

⇒編集委員会からのフィードバックで修正

2013年4月

電子版仮運用開始、会員からのフィードバック、試用期間でバグ出し等を進める

2014年1月

2色刷り冊子体廃止、電子版のみに移行

以上